

山形県民教連通信

Contents

<http://www.asahi-net.or.jp/~gy6e-kjm/>

2021.4.17 No.71

巻頭言「コロナの中でも若い人とつながり…」	… 1
医学的知見をもとにコロナを正しくおそれ…	… 2
追悼 鈴木輝男先生	… 4
30人学級の実現を～県民運動の取り組み～	… 5
現場の声「コロナ禍の保育」	… 7
実践紹介「ピー玉パーティ」	… 8
「おにぎり通信」	…10
山形県民教連会計の訂正	…11
随想 沖縄で暮らす「青い目の日本人」	…12

山形県民間教育研究団体連絡協議会 通信
 <発行人> 山形県民教連事務局
 〒990-0044 山形市木の実町12-37
 県教組山形地区支部内
 TEL/FAX 023-631-2112/2126
 E-mail yamagata@yamagata-kenkyousei.gr.jp
 <編集人> 鬼島 悦雄 kijima@e.email.ne.jp

巻頭言



コロナの中でも 若い人とつながり、 民主的教育実践を つくっていこう

山形県民教連会長
設楽 隆雄

3月8日、玄関に置いた福寿草が花を開かせました。太陽を向き、光を浴びて金色に輝いています。冬、山形は一面の雪で真っ白な世界になり、すべてがリセットされます。そして春になって植物が一斉に芽吹き、色彩豊かになります。そういう変化を見て、私は「よし、今年もやるぞ!」と思い、力が湧いてきます。

2021民教連`冬の学習会・総会、大成功!
若い人とつながろう!

今年の冬の学習会・総会は、コロナの影響でオンラインとサテライト会場でのハイブリッド形式で行いました。オンライン参加者は39名、ハイブリッド参加者は13名の計52名です。コロナ禍でも、「学び」をつくることができました。

学習では、東京大学の佐藤 学氏の「新型コロナ・ポストコロナ時代の教育改革」の講演を視聴しました。佐藤先生は、日本や世界の様々なデータをもとにして、

・日本の社会や教育の変貌と危機的な実態

・第4次産業革命とICT教育によって学校が企業化されていくという公教育の危機の実態
 ・今後の教育は、創造性、探求、協同が大事で、「学びの共同体」のある授業づくりが重要と、語っています。

私が、特に印象深かった言葉は、「学校のコンピュータ活用と学力の関係は逆相関をしている」「一人も取り残さない教育」です。また、映像では、企業化されたアメリカの学校で学力テストが何度も行われ、AIによって個別最適化された学びを与えられた子どもたちが「ケージに入っている鶏のようにパソコンに向かってる」姿でした。

私は、絶対に学校の民営化をさせてはいけない、教師が誇りをもって創造的な授業ができる環境をつくりたい、と思いました。

総会では、SNS《フェイスブック》の活用、天童集会の取り組みを通して、若い人たちに民主的な教育実践に触れる機会を与えるとともに、次代を担う教職員に育てていくことを決めました。SNSはすでに運用されていますので、皆さんご覧ください。

また、会員からは、若い人たちとつながりを持つことが大事なので、機会をとらえて声かけをしていくこと、サークル活動では、若い仲間を組織化しつながりをつくとともに、若い仲間が自分たちで学習会をつくれるようにしていくことが大切である、という発言がありました。

なるほどと思いました。これからのサークル活動に生かしていきましょう。



少人数学級実現の運動が着実に前進しています！

本号に「少人数学級実現運動」の事務局長堀野広一さんのお書きになった記事が掲載されていますのでご覧ください。この運動は、長く多忙でブラックだと言われ、暗いイメージだった教育界に希望の光を射しこませてくれています。そして、小学校の35人学級が実現しました。この運動を一層推し進め、20人学級を実現させたいです。

ただ、傍聴した市議会は悲しいものでした。反対意見が出て討議が始まるのかと思っていたのですが、全然出ずにすぐ投票になってしまいました。そして、同数になり議長裁決で不採択です。いったい何が問題なのかははっきりしませんでした。民主主義を多数決とはき違えていると感じました。私が担任した子どもたちは、みんなのことを考えて提案したり発言したりしていました。そして、反対の友達がいると、どうして反対なのと聞き、お互いが合意できる案を提案し、説得していました。

私たちは、学校教育で「多様な意見の尊重」

「意見を交わし合い合意で決める」などの民主主義の本質をきちんと教えていかなければなりません。

民主教育とは

「民主的な環境のもとで、
民主的な社会をつくる力をはぐくむ教育」

私は、最近マルクスの『資本論』を読みました。(これも学びかな。)

NHKの『100分で名著』の番組で観たのがきっかけで、同名の本を購入し読み始め、4日間ほど読み終わりました。

それが、とてもわかりやすく、「なるほど！」という機会が多かったです。気候変動も、格差の拡大も、過労死も、現在のコロナ禍も、すべてを囲い込み商品化し利益をあげようとする「資本主義の暴走」からなっていること、そして、それを解決するには「コモン」「協同」が大事だ、ということがわかりました。

「学ぶ」ということは楽しいものですね。

医学的知見をもとにコロナを正しくおそれ、 「子どもたちの心と体を守る」対策をおこなってみてはどうか

富山市立学校新型コロナウイルス感染症対策検討会議から

山形民教連会長 設楽 隆雄

3月28日付の新聞赤旗日曜版に『小中高生、毎日がまん・・・』「コロナ禍でストレス、うつ状態」という記事が掲載されていました。そしてその一角に「日常を取り戻すために」というタイトルで富山市立学校新型コロナウイルス感染症対策検討会議の座長、種市尋宙氏の記事が載っていました。

読んで驚きました。「合唱コンクールや卒業式の合唱も換気などの感染対策をして実施できる」ということが書いてあったのです。富山市では子どもたちの日常を取り戻すために最新の医学的知見や地域の感染状況を考慮しながら、対策の適正化として緩和を図ろうと取り組み、昨年5月末から医療と教育が連携して上記の会を立ち上げ、保護者へのリーフレットを作成し子どもたちを守っているそうです。

なんと、その内容が4月5日のNHKの『あさイチ』で放送されたのです。

放送では、検討会議が提言した内容をもとにし

て、卒業式の入退場や授与は会話がなかったのでマスクを外していました。合唱もはじめはステージを向いてやる予定でしたが、子どもたちが保護者と対面でやりたいという要望を出し、それを教師が受け入れ、間隔をあけて行い、いつもと同じ感動的な式を創り上げたそうです。子どもたちも保護者も教職員もみんな大喜びの声を発していました。子どもたちは、コロナ禍の中で様々な制限を受け長期の我慢を強いられ、不安やストレスを抱え込んでいます。いつもマスクをはずさない、ソーシャルディスタンスを保つ、みんな前を向いて静かに給食を食べる、授業中グループで話し合うことは避ける、合唱をしないなど、きりがありません。

そうではなく、子どもたちの心と体の安定のために、医学的知見にのっとってできるだけストレスのない行動ができるようにしてあげることが子どもたちの心と体を守るために大切です。すべてをダメ！にしないで、条件をつけながらできるところは過度に怖れず緩和していいのではないかと

と考えるのです。

山形の教育現場でもそういう考えを取り入れられないものかと思い、一石を投じる気持ちで投稿します。現在、変異株が広がり対策も変わっていることと思いますが。



富山市立学校新型コロナウイルス感染症対策検討会議の『保護者向けパンフレット』より抜粋

VOL.2 (6/11号) より **校内の消毒について**

教室やトイレなど児童生徒等が利用する場所のうち、特に多くの児童生徒等が触れる箇所を1日1回以上、消毒液(消毒用エタノールや次亜塩素酸ナトリウム等)を使って拭き取る。

児童生徒の机については、個人で使用するものなので通常の清掃(水拭き)で問題はない。

「多くの人の手が触れると、感染リスクが高くなるのではないかと心配だ」という声も聞かれますが、プリントやノートに触れることまで心配する必要はありません。慎重すぎる感染対策は、大きな効果が得られない一方で、学校生活を継続する上で不要なストレスを生み、偏見・差別につながる懸念があります。感染対策にはメリットだけではなくデメリットも付きもので、時にそれが重大な問題を誘発することもあり、過信しないことも必要です。



VOL.3 (6/24号) より

Q11 湿度・気温ともに急上昇し、熱中症が心配です。登下校時に必ずマスクは着けないといけないのですか？

検討会議だより VOL.2 でもお伝えしましたように、これまで学校では、マスク着用時の熱中症リスクを考慮し、子どもたちに「人との距離が十分にとれている場合や、息苦しいと感じたときは、マスクを外してもよいこと」を指導してきました。～実際の子どもたちは、「雨合羽を着ての登下校」「水筒のお茶を飲み干し、重い荷物を背負っての下校」等、大人の目が届きにくい登下校時に、たくさんリスクを背負っているのです。

これらの状況を踏まえ、本検討会議では、「登下校時にマスクの着用を求めない」とこととしました。



～登下校時にマスクの着用を求めない理由～
 気温や湿度が変動しており、熱中症発生のリスクが高いこと
 3密が重ならない屋外であること
 現在、地域の感染が落ち着いていること

VOL.5 (7/16号) より

7月7日の本検討会議では、合唱や合奏についても、「距離」「換気」「時間」「手洗い」等の注意事項を示し、各校の実態にあわせて再開することに問題はないと判断しました。

知恵を絞り工夫することで、新しいスタイルでの学習発表会や合唱コンクールが開催できないか、各校では新たな模索が始まっています。現在、マスク着用の制限はあるものの、インフルエンザ流行時に近いレベルまで、日常生活は戻りつつあります。今後はインフルエンザ流行時と同様に、感染状況に合わせて、感染対策を強化したり緩めたりしながら、「富山市立学校の新しい生活様式」を作っていくこととなります～

VOL.7 (12/10号) より

「学校 教育委員会 検討会議」の体制を整え、ベストな対応を模索しています。

～比較的、感染拡大リスクが高いとされている合唱コンクールの開催にあたっては、検討会議が作成した「合唱指針」を基に、各学校の状況を考慮した対策をとりながら、多くの学校で美しいハーモニーが響きました。

今後は、「卒業式・入学式開催指針」を作成し、子どもたちの門出もサポートしていく予定です。感染対策は、家庭と学校で協力して行うことが大切です。

VOL.8 (3/2号) より

門出をサポートします

1. 卒業式・入学式開催指針を発行しました
- ・「入退場や卒業証書授与等、飛沫が飛ばない場面」「周囲の人と十分な距離がとれている場面」では、子どもたちにマスクの着用を求めません。換気や距離を重視した対策を行っていきます。晴れやかな表情の子どもたちを、温かく見守ってください。
- ・体調がすぐれない場合は無理をせず参加を見合わせてください。参加される保護者の皆様は「マスクの着用」をお願いいたします。私語を控え、手指衛生に努めてください。
- ・学校の規模、会場の広さ等も考慮し、各校それぞれに工夫して式を開催します。

できる限りの「日常」を！

3. 「仕方がない」と我慢させるのではなく、
できる方法を模索していきます

感染対策を講じていても、かかりにくいとされる子どもたちであっても、クラスターは起きています。だからといって、ゼロリスクを求めることは、子どもたちの心に蓋をし、健全な発育を阻害する危険性が高くなります（調査結果

参照）。

学校行事等も感染を恐れて一律に中止するのではなく、開催時期の見直しや内容の精選を行い、最新の医学的知見、地域の感染状況等を考慮しながら、「どうしたら実施できるのか」を模索し、かけがえのない「今」を大切にしていきます。

追悼 鈴木輝男先生



去る3月9日、鈴木輝男先生がご逝去されました。享年90歳でした。本県教育労働運動の炬火の繋ぎ手として、北方の生活台に根ざした教育運動の継承者として、また歌人として才気煥発な闘士としてご活躍されました。ここに衷心より哀悼の意を表し、輝男先生が11年前「村山俊太郎没後60年忌」に際して綴った「集い」への案内文をご紹介します。

村山俊太郎は、社会矛盾に陥った1930年代、時代と格闘し、北方性教育の旗をかがげ、志なかば43歳で仆（たお）れました。村々は地主制度の呪縛と後進的資本主義のはげしい収奪に加え、度重なる凶作によって、惨憺たるものでした。

子どもたちは食を失い、娘たちは売られていく。学校では、天皇を神と敬い、侵略戦争に命を投げだす「忠君愛国」の教育がくり返される狂気の時代です。

村山は、1931年本県はじめての「教育労働組合」を結成し、打開の道をはかろうとしました。しかし、官憲の検挙によって運動は挫折します。

職を追われた村山は、新聞記者をしながら東北の教育実践家たちと「北方性教育運動」に渾身の情熱をそそぎます。やがて1936年に現場復帰をはたし、生活綴方教育の実践と膨大な諸論文、評論を教育誌に発表し、進歩的教育に大きな影響を及ぼしました。

村山の学究と実践からくる提言は、社会科学的見地からの根拠によって、現在もなお生命力を失わない高い内容をもっています。教員組合をはじめ、多面的な運動に参画し、一貫して現実社会と教育とのかかわりを実践的に探求したものとと言えます。

1940年「生活教育弾圧事件」の最初の逮捕者として検挙され、わずか4年の活動が断罪されましたが、その栄光は戦後に引きつがれることになりました。

2年間の獄中で「プロレタリア教育の理論」

「自叙伝」を執筆します。不衛生と栄養不足の食事から獄中で肺結核に感染、12月31日雪降る夕刻、獄死寸前に保釈されました。

1945年、敗戦となるや、総選挙での共産党候補の応援演説、教員組合の結成、2・1ストの指揮に全精力を尽くします。教育実践論、学校民主化論、文化論、童話など日夜を惜しんで執筆しました。

戦後民主化のために、精魂を尽くしましたが、獄中の病気が再発し、果たし得なかった宿願をおもいつつ「あとをたのむ」といいながら息をひきとりました。1948年12月9日、雪の降りしきる晩でした。

農業や労働現場に生きる貧しい人々をふかく思い、その人間的権利の確立と社会的・経済的地位の向上を願い、なによりも「子どもたちの未来に自立と真実を」の理想を捨てなかった教師でした。嵐の中を生きぬいて、民主教育運動の理論と実践をのこした村山俊太郎は、現代に生きる私たちに何を語りかけるのでしょうか。

村山俊太郎没後60年忌にあたり、時代の大きな変革の地鳴りをおぼえつつ、明日を語りあう集いを開きます。戦後を共にしてきた知友盟友にご案内しました。どうぞぜひにも笑顔をみせてください。

2010年2月

「集い」実行委員会
代表 鈴木 輝男



30人学級の実現を！ 20議会が意見書採択

～ 少人数学級実現県民運動の取り組み ～

「少人数学級をすすめる県民の会」事務局長 堀野 広一

はじめに

小学校2年から35人学級を段階的に実現する義務標準法の改正案が3月31日、全会一致で可決・成立しました。学級規模の一律引き下げは、40年ぶりです。小学校のみ、5年もかけてという不十分さはあるものの、運動が作りだした重要な前進です。この国の動きを待っていたかのように全国で少人数学級を進める新たな動きが起きています。

少人数学級をすすめる全国の新たな動き (県民の会調べ)

- 群馬県 小1、2は30人以下、
小3～中3まで35人以下学級
- 仙台市 35人以下学級を小学3年生に拡充
- 埼玉県 小学校3年生で35人以下学級を実施
- 佐賀県 小学校3年まで35人学級拡充
- 岐阜県 小学校4年まで35人学級拡充
- 高知県 小学校全学年で35人以下学級へ
- 福岡・北九州市 小学校全学年で35人以下学級へ
- 兵庫・明石市 中学校1年まで35人学級拡充
- 沖縄県 中学校3年生まで35人学級拡充
- 愛知県・名古屋市 小3で35人以下学級へ
- 富山県 小3・小4で35人学級を全県で実施
- 山梨県 小1年生で25人学級実施、
次年度は小学2年生まで拡充
- 奈良・河合町 全小中学校で
特別支援学級の生徒も含め35人学級実施

学校が再開された5月以降、教育学会や政党、知事会会長、市長会会長、町村会長、小中高等学校長会長、特別支援学校長会長、教育研究者などから、少人数学級を求める提言や要望が次々と出されてきました。コロナ禍の中で、少人数学級実現は国民の切実な願いになっています。

県民運動の大きな広がり

県民の会が結成され、運動がスタートして約半年になります。不登校・いじめの増加、コロナ感染拡大を背景に、安心安全でゆきとどいた教育を求める運動は党派を超えて大きく広がりました。

全県で集約された署名数は12,000筆を超えています。2月には県民の会の活動が新聞やニュースでも大きく取り上げられました。

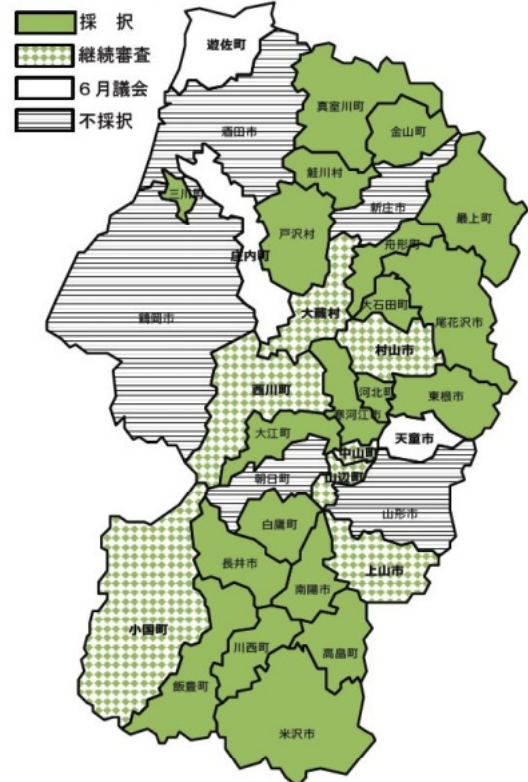
多人数単学級解消へ

山形県民団体が県に要請書

山形県の「少人数学級をすすめる県民の会」(13団体で構成)の伊沢良治世話人代表と堀野広一事務局長は8日、山形県庁を訪れ、菅間裕児県教育長に「コロナ禍から子どもを守りゆきとどいた教育実現のための要請書」を手渡しました。日本共産党の渡辺ゆり子県議が同席しました。伊沢世話人は、コロナ禍に対応した文科省のガイドラインが示している児童生徒の間隔を可能な限り2倍(最低1.5倍)を確保するために、いまも40人学級のままの多人数単学級(83学級、約3,000人)の解消を要請しました。堀野事務局長は県出身俳優の渡辺えりさん、自治体首長・学校長をはじめ多くの県民から賛同が寄せられたと紹介。政府が35人学級実施を表明する中で、「教師が子ども一人ひとりに手をかけられるように、早期の30人学級実現と20人程度

30人学級実現を求める意見書採択の議会請願は、3月、45名の議員の方の紹介によって、35市町村議会中32議会に請願することができました。請願結果は採択20議会(30人学級を求

3月議会請願結果 (2021/3)



める意見書を国へ)、継続審査7議会、不採択5議会となりました。県民の会は、署名対話活動によって30人学級を求める声を広げました。議員一人ひとりに少人数学級の必要性や意義を訴え、賛同を働きかけました。

そんな地道な活動によって議会の中の流れが大きく変わり、全会一致で文句なしの採択を実現できた議会が数多くありました。

一方、不採択になった5議会は、住民の代表でありながら、知事会、市長会、町村会や校長会、教職員や父母、子どもたちの願いを、いとも簡単に踏みにじるといった結果となりました。これらの議会の実態は、県民に明らかにする必要があります。

さらに県民の会は、6月県議会も含めて4議会に請願提出を予定しています。継続審査の7議会を含めると11議会で結論が出されます。これから約1ヶ月半、6月議会に向けて署名を積み上げ、議員に願いを届け、働きかける活動をさらに進め、県内31議会の採択を勝ち取ります。特に村山、酒田、鶴岡地区は結論の出していない議会が多い地区です。運動はこれからです。県民運動への参加協力を心から呼びかけます。

最後に

新型コロナウイルス感染者は全国48万人、山形県も1千人を超えました。収束に向かうどころか急増の傾向さえ見せています。

文科省は2020年の小中高校生の自殺者数が前年比140人増の479人(暫定値)と過去最高となったと明らかにしました。学校が本格的に再開された6月以降、毎月前年を上回っています。中でも女子高校生が前年の約2倍の138人となっています。文科省は「前年までであれば踏みとどまっていた子どもたちが『コロナ禍』による先行きの不透明感や社会不安によって自殺に至ってしまった可能性がある。新型コロナの影響は今後も続くため、予防教育や相談体制を強化していきたい」と述べています。コロナ禍のなかで様々な思いを抱えている子どもたちの声に向き合い、その声を聴くことができる少人数学級実現の願いは切実さを増しています。

義務標準法の改正案審議の過程で、首相は中学校でも35人学級を検討すると述べ、文科大臣は「中学校も含め最終的には30人以下が理想だ」と答弁。参考人も中高でも少人数学級をすすめるべきだと述べ、35人より少人数にする必要性を

指摘しました。衆議院文部科学委員会は中学校での35人学級、高校の学級編制標準の検討などの附帯決議も採択しました。

県民の会は、子どもたちの願い、社会の要請に応え、安心安全で子どもたち一人ひとりを大切に教育の実現、少人数学級のさらなる前進のために力を尽くしていきます。



みなさん！ 「少人数学級実現」運動に 力を貸してください！

次の6月議会に向けて、運動を盛り上げ、世論を高めていきましょう！

そのためには、多くの市民と対話し、少人数学級実現をみんなの要求としていくことが大切です。ぜひ、同封された署名用紙をもとに声をかけてください。

目標は20,000筆です。4月10日現在、12,406筆です。まだ足りません。

よろしく願います。

用紙をコピーしていただいても結構です。がんばっていただいて用紙が埋まらなくても結構です。事務局へ送ってください。(申し訳ありませんが、送料は自己負担で願います。)



現場の声

2020年度 コロナ禍の保育

山形市 たつのこ保育園 高橋 峰

4月。突然の緊急事態宣言と小中学校の休校。それに伴って、家庭での保育が可能な家庭にはお休みの協力をお願いした。

子どもの人数が少なくなった分、園舎、園庭とも広く感じたし、当然、関わりにもゆとりが生まれた。新年度の始まりとは思えない程、園全体がゆったりとしていた。いつもは子どもも忘れがちで大人も声がかききれない“手洗い”にも、丁寧に関わられたし、これまでになく子どもたちも上手になった。

人の出入りを少なくするために、子どもの荷物を置くロッカーを、玄関に入ってすぐのホールに移動した。

その後感染拡大を受けて、ロッカーをホールから玄関スペースに移動し、1Fで保育をしている2歳～5歳児の保護者の園舎内への出入りをさらに極力少なくしてもらった。

子どもにとっては生活しにくいし、私たちも目のかけにくい導線だった。しかし、優先すべきは感染症対策・子どもの命を守ることだ。そう思っ

て対応を続けてきた。
5月末ころから、休んでいた子どもたちが戻ってきた。久しぶりの顔に会える嬉しさは大きかったが、人数が増えるにつれ、それまでやれていた感染症対策が難しくなっていた。配置されてい

る職員の数は変わらないのに、やらなければならない仕事が増えているのだから当然だ。

今以上に私たちにとってコロナが得体の知れないものだった。

- ・子どもは重症化しにくい
- ・結局ただの風邪だ
- ・もち詰まらせて死ぬ人の方が多いんだ
- ・・・、みたいな話もあれば、とにかくステイホームだとか、すれ違う時に感染のリスクがあるから山歩きもだめだとか。(たつのこの春のくらしで山に入れないのは、とてももったいないことなのです。)

様々な情報が入ってきた。結局よく分からないものだからこそ、気持ちの面では迷わされた。先が見えない不安も大きくなる。子どもへの声がけもきついものが多くなっていったと思う。自分自身もいつの間にかすっかり滅入っていた。

そんな状況を職員間で話し合った。感染拡大もひとところより落ち着いていたところで、それまでしていたロッカーの配置や保護者の出入り制限を、いったん元に戻すことにした。

少しでも通常の保育に近い状況に戻りホッとした。秋は比較的落ち着いて過ごすことができたように思う。

その後、園としては子どもも保護者も職員も罹患せずに元気に過ごしていた。しかし第三波の広がりとともに、再び保護者の出入りを制限することにした。2歳～5歳までは保護者は玄関対応とさせてもらった。



おしらせ!!

第69回東北民教研天童集会の開催について

昨年度、新型コロナウイルス感染防止を理由に開催を延期した天童集会は、去る1月9日(土)に開催された県民教連2021年次総会で、「本年8月7日から9日までの期間で、天童温泉を会場に開催する」方向で決定しました。その際、5月上旬に招集予定の運営委員会(各県民教連代表並びに分科会東北責任者、現地山形実行委員、各県教組代表等)で、最終判断とすることにしていました。

しかしながら、4月現在、依然として感染拡大が収まる傾向は見え、むしろ第四波として再拡大が続いています。現状、現地実行委員会や運営委員会の対面会議の招集は困難と予想しています。

開催には、本県はもとより東北各県参加者の安心安全が確保されることを第一に、近日中に東北各県民教連並びに各県教組代表と協議した結果をお知らせしたいと思います。ゴールデンウィークの後、当民教連ホームページやフェイスブックでご確認いただくと幸いです。

山形県民教連事務局長 東海林 仁

実践紹介

手軽にできて、子どもたちが「がんばりだす

ビー玉パーティ

山形県生研・山形サークル 設楽 隆雄

1. 「先生、ビー玉だね」と、子どもたちが。

T「今日の歌、みんな大きな口をあけていたね。」

S「先生、ビー玉を入れて。」

と言って、子どもたちはビー玉とボトルを指さします。私は、笑顔でビー玉をとり、チャリオンと入れます。心地よい響きです。子どもも教師もにこにこです。



ボトルいっぱいになったら、子どもたちと話し合って、何をするか決めます。

「宿題無しの日」「ゲーム 大会」などをやると大満足です。

2. これまで続かなかった・・・

これまでも子どもたちの「がんばり」を形にし、視覚的に見せ、達成感や次への意欲を高めたいと考えてきました。それで、「がんばりの木」や「学級の宝物」などの実践に取り組んできました。

しかし、長続きしませんでした。いつも4、5月、1学期くらいで終わってしまいました。(私のやり方も悪いのですが)その要因として、「学級全体が前進したとき」に限ったために、なかなか増えなかったこと、掲示をするのに時間がかかったことがあります。

そして、いつの間にか掲示が色あせてしまいました。

3. 今回は手軽に考えて

そこで、今回は、「学級全体が前進したとき」などと限定せずに、一人ひとりの「がんばり」なども認めていくことにしました。

また、掲示もたいへんなので、ビー玉をボトルに入れることにしました。

(ビー玉を入れた理由は簡単に画用紙に書き、掲示してきました。)

例 掲示した画用紙

- ・総会でたくさん発言した。みんなで発言権をとる。(5/13)
- ・Mさん、逆上がりができた。(5/29)
- ・掃除をよくやった。特に、3・5班のトイレ掃除。(6/17)
- ・整列が速くなった。(8/21)
- ・運動会チームリーダーに13人立候補する。(8/25)
- ・Nちゃん25m泳いだ。(8/26)
- ・Y君、給食全部食べる。(9/3)
- ・・・など



4. 実際の様子

(1) そうじの取り組み(8/29)

『そうじをする力をつけよう』ということで
3日間取り組み、達成しました。

T「どのビー玉にする？」

S「大きいビー玉がいい！ だって、みんな
で取り組んだんだもの。」

T「よし、大きいビー玉1個ゲット！」
(チャリーンと入れる)

S「あと何個でいっぱいになるの？」

T「あと10個くらいかな。」

と、会話も弾みます。

(2) 個人のがんばりもビー玉に

S「先生、Y君、逆上がりができたよ！」

T「よし、Y君のがんばりだね。個人のがん
ばりだから、小さいビー玉でいいかな。」

S「いいよ。」

T「ビー玉1個ゲット！ Y君のがんばりに
感謝だね。みんな、拍手！」

5. 学級が高まっていく！

この取り組みを行ってから、子どもたちの中
に、「自分のがんばりがみんなのものになる」
「みんなのおかげでビー玉がたまっていく」
「みんなでがんばれば、たまっていく」という
意識が育ち、意欲が高まり、前進的なトーンが
見られてきました。

また、自分のビー玉があのかのビンの中にあると
いう気持ちが、子どもたちに自信を与えてくれ
ました。

そして、ビー玉を獲得するために意欲的に行
動するようになりました。

- ・「先生、そうじしっかりやったからビー玉
入れて。」と、訴えてくることも。
- ・「今日、ビー玉をとるために自習をしまし
たら、声かけよう。」と、声かけることも。

それは、外発的な動機づけではじまったこと
ですが、確実に学級がまとまってきました。

また、帰りの会で、他の班や友だちの行為を
ほめ、「ビー玉をあげよう。」と語るようにな
りました。それに、「自習はよくできたけど、
どのくらいのビー玉を入れる？」と聞くと、
「少し話をした人がいるから、中くらいかな。」

と自分たちを見る目が育ってきました。

徐々にレベルは高まり、子どもたちの中から、
「そんなことは当然だよ。」「そのくらいでは
入れなくていいよ。」などという声が出るよう
になりました。

6. 留意点

(1) ビー玉が一杯になったらお祝い会を企画す
るといいですよ。子どもたちにやりたいもの
を聞き、学級会で話し合っていくと、子ども
たちは学級が楽しくなり、話し合う力もつき
ます。

(2) ビー玉や入れ物は、100均で購入できます。
入れ物は小さいものを選びましょう。それは、
すぐいっぱいになり、お祝い会が開けるから
です。いっぱいになったことは子どもたちの
自信につながり、次への意欲を高めてくれま
す。

(3) 入れる「基準」を変えてもいいです。学級
全員がんばりの時は大きいビー玉、または3
個。班の時は中くらいのビー玉、または2個。
個人の時は小さいビー玉、または1個などと。



学校の「校則の見直し」が話題になっています。中学校現場で、「きまり」の見直しにとりくむ生徒会を支えている五十嵐 晋先生の学級通信を紹介します。（この実践の全容は次号以降に）

<h1>1組 おにぎい通信</h1>	<p>2021/03/12 169号 発行者 五十嵐 晋</p>
--------------------	--

今田歩希くんが、生徒会総括会で述べた全文を掲載します。

前期生徒会長として、その顔が、どこを向いているか、よくわかると思います。決して、自分より力ある者の顔色をうかがっていません。

私は、「正義」は、発する状況や社会の立場によって、都合よく語られることがあるので、常に疑っていますが、歩希くんは、生徒会長として向いている方向が、常に仲間の思いをくみ取ろうという方向にあるのです。

これは、まさしく「正義」だと思います。

彼が、今回の見直しを100%満足しているとは思いません。

それは、君たちも同様だと思います。

私のこじつけのような論理を「よし」としないことも多々あったと思います。私は、「教師」という地位を利用して、彼の思い、そして君たちの思いを削り取った所も「なきにしもあらず」です。

しかし、そこで投げ出さずに、折り合いをつけてきた所は、脱帽です。「自分たちが、この決まりを守る当事者なのだから、今後、その当事者を抜きにして、勝手に決めないでよ!」ということは、確実に自分たちの手にした、と言えると思います。

（民主主義の原点であり、教科書でも語られることを実践しただけですが、学校という所は「教科書は教科書」「現実」は現実」と意図的に分けてしまうのが、当たり前になりがちです。）

歩希くんがこのように粘り強くやり抜けるのは、当然、君たちの支持が強固だからです。

君たちは、仲間の思いを仲間の立場に立って考えることのできる人になっています。

教室で生活しない選択をしたAさんに、10日の下駄箱清掃を一緒にしようと声をかけたBさんは、「一緒にやろう。辛くなったらいつでもやめていいから」と声をかけました。

続けて、11日には、Cさんが、卒業式練習に誘ったり・・・

Dさんが、「決まりの見直し」の最中に真っ正面から、現行の決まりに異議を唱えたとき、Eさんが、「それじゃ、過激。こうしたら?」と文面を手直ししたり・・・

体調をこわしたクラスレク担当Fさんに代わって、当たり前のようにクラスレクの企画を作り上げたGさんのさりげなさ・・・

係の配布物をさっと手伝う人は数知れず。班長を中心に班ごと、あっという間に折り鶴を10羽×6班、作成してしまう「公」の活動の協力体制の素晴らしさ。

この仲間の中で、活動すれば、歩希くんでなくても、やり抜く粘り強さを発揮できたでしょう。

（前期会長歩希くんの言葉全文）

前期生徒会は「生活のきまり」の見直しに着手しました。

そして、ようやく見直しが終わりました。時間はかかりましたが、後輩の皆さんに、是非、その意味を自覚してほしいと思います。

学校で「生活のきまり」に基づいて生活するのは、私たちです。私たちの生活ですから私たちが、日常から「きまり」とは、何か、ということを考え続ける必要があると思います。

今回、各クラスで真剣に話し合い、一つ一つの項目について、自分の生活に照らし合わせ、適切かどうかを考えたことは、「自分たちの生活は、自分たちでつくる」という当たり前のことを実行したということなのです。

誰かに、指図されながら自分の生活をつくるのではなく、自分で考え、自分で決断していくことが求められます。

これ（自分で決断していくこと）が、「自由」ということだとすれば、誰かに判断してもらうのではなく、自分で決めていく、という意味で「自由」は、私たち一人一人にとって、とても重いものだと思います。

新しい生活のきまりは、校長先生のアドバイスや先生方の意見も反映されたものになっています。その具体的な中身は、一人一人が、判断しなければなりません。「違反していなければいいだろ」というレベルの低い人が増えると、当然、決まりの項目はどんどん細くなって、生活そのものが窮屈になっていきます。

そうならないために、校訓の一つでもある「気品」という言葉を念頭に置いた生活を心がけてほしいと思います。

今後も「居心地のいい学校」づくりに一人一人が取り組んでほしいと思います。

私たちは、まもなく卒業です。後は後輩の皆さんに託したいと思います。

ありがとうございました。

1月9日の総会に提示された山形県民教連の会計決算と予算を、以下のように訂正します。

●2020年次決算と2021年次予算の訂正について

2020決算

1 収入の部

項目	予算額	決算額	比較増減△	摘要
繰越金	76,309	76,309	0	2019年次残金
会費	95,000	98,391	3,391	個75名, 団5サークル, カンパ等
事業/雑収入	0	10,500	10,500	冬学2019収支残金
計	171,309	185,200	13,891	

2 支出の部 ※負担金比較増減を訂正

項目	予算額	決算額	比較増減△	摘要
事務費	5,000	6,750	1,750	事務局経費, 資料代
通信費	40,000	58,054	18,054	メール便配送料, 切手封筒代ほか
会議費	20,000	9,936	△ 10,064	東北代表者会会場費, 冬学会場費ほか
旅費	12,000	8,000	△ 4,000	東北民教研代表者会(仙台)
負担金	13,000	21,152	8,152	コロナ協同アクション, 少人数学級実現をすすめる県民の会, 日本民教連ニュース他
事業費	20,000	9,960	△ 10,040	冬学2020設営準備会, 講師接待
準備金繰入	0	0	0	天童集会開催年のため繰入は計上せず
予備費	61,309	0	△ 61,309	
計	171,309	113,852	△ 62,457	

3 差引残高

$$\begin{aligned} \text{収入総額} & \text{ - 支出総額} = \text{残高} \\ 185,200 \text{ 円} & \text{ - 113,852 円} = 71,348 \text{ 円} \end{aligned}$$

2021予算

1 収入の部 ※収入の部, 支出の部の各比較増減合計額を訂正

項目	予算額	昨年度予算額	比較増減△	摘要
繰越金	71,348	76,309	△ 4,961	2020年次残金より
会費	105,000	95,000	10,000	個人90名, 団体5サークル
事業/雑収入	30,000	0	30,000	事業収入見込
計	206,348	171,309	35,039	

2 支出の部

項目	予算額	昨年度予算額	比較増減△	摘要
事務費	10,000	5,000	5,000	角封筒, 用紙, 振込用紙ほか
通信費	70,000	40,000	30,000	メール便配送費, 封書葉書切手代ほか
会議費	20,000	20,000	0	東北民教研関係会場費ほか
旅費	24,000	12,000	12,000	東北代表者会, 運営委員会, 総括会
負担金	20,000	13,000	7,000	未来をひらく教育のつどい, コロナ共同アクション, 日本民教連ニュースほか
事業費	30,000	20,000	10,000	冬学2022準備, 通信編集謝礼ほか
準備金繰入	0	0	0	
予備費	32,348	61,309	△ 28,961	
計	206,348	171,309	35,039	

3 差引残高

$$\begin{aligned} \text{収入総額} & \text{ - 支出総額} = \text{残高} \\ 206,348 \text{ 円} & \text{ - 206,348 円} = 0 \text{ 円} \end{aligned}$$

～随想～

沖縄で暮らす

青い目の日本人

早坂 久佳（山形）

20年も前にハイブリッド車はこれからの車だと思っていたのですが、東京モーターショーに行ったとき、日本だけが躍起になっていることを知り、今ではガラケー同様のガラケーになろうとしています。世界と日本における地球環境を守る考え方に違いがあったのかもしれませんが。

このように、日本でオリンピックを運営する人の中に、男女平等の論理や差別を許さない理念を言葉だけで中身を軽んじてた人達がありました。この流れはある政党の人達の中にも色濃く残っており、時々、いや、最近は頻繁に問題化しています。もうガラケー状態なのに「80年生きて初めての失態」なんてコメントするようでは、事の本質はわかっていない訳です。

さて、沖縄からの報告ですが、コロナ禍による独自の緊急事態宣言が2月中行われていて、辺野古の座り込みも県外者の参加は2週間後にと制限されていました。1ヶ月もいるので2回参加できると計画を立てていたのですが、一緒に来ていた妻が急性虫垂炎になり救急車で病院に搬送され、9日間入院し、今回は大事を取って断念しました。そんな中で、救急隊の方のお話です。

救急車を呼んで、3人の救急隊の方が来てくれたのですが、最初から最後まで1の方が妻のこの聞き取りや今後について対応してくれました。コロナ禍だからでなくてもマスクとフェイスガードをしている救急隊員ですが、40代のかんりのイケメンに青い目が見て取れました。しかし、言葉は流暢な日本語なので外人でないことはわかりました。

妻の病名もわかり一安心したので、青い目を再確認し、ここは沖縄なんだと思いを巡らしてしまいました。160回目の直木賞を受賞した真藤順丈の『宝島』を昨年読んでいたので、戦後の沖縄の歴史や事情と重ねて考えていました。その救急隊員個人はどうかは全くわかりませんし、当てはまらない想像でしかありません。『宝島』に出てくるウタという孤児は青い目で、戦後の混乱の中で沖縄の人々に守られ育っていきます。物語においてウタは、コザ騒動の混乱時に米軍の毒ガスを盗み、アメリカの支配を終わらすレジスタンスに加わり、米軍の銃に撃たれ死んでしまいます。

現在でも、日本の米軍基地の7割を抱える沖縄、日本人と交わることは必然です。小説の孤児ではなく、父親が帰還してしまった片親家庭、さらには幸せな結婚での両親家庭の中で育ったのかも全くわからないのですが、青い目の日本人として救急隊の重要な役割を担い、いずれにしても人種や性別に関係なく、人として支えている沖縄の優しさに感心します。

琉球処分以来、自治を奪われ、現在も未だ解決しない故郷と基地、沖縄とアメリカ、現在と過去の中で葛藤しているはずの沖縄の優しさは、命どう宝(平和な時がやがて来る。嘆くなよおまえたち。命こそ宝なのだから。)の教えから来ているのかもしれない。



夕暮れのサトウキビ収穫 (早坂画)

(白サギが、

獲物の小動物が出てくるのを待つ共存場面)